

新潟県公民館月報

昭和36年3月1日(毎月1回1日発行)
 発行所 新潟県公民館連絡協議会
 (新潟市寄居町・越後自治会館内)
 (振替(新潟)4094番)
 (電話(新潟)2,7954番)
 発行人 安 沢 純 正
 (定価 一部 六円)
3月号 (97号)

社会教育の拠点に公民館

36年度 半額補助で 83館を整備

文部省の十カ年計画

文部省は来年度から千六百六十町村が未設置ないし十カ年計画で青年・婦人は看板だけという実情である。と人学級などあらゆるところが、公民館のある市町村では社会教育の拠点となし、公民館が盛んで、とくに青年学級の公民館を整備する方針を打ち出した。これにより、さらに独立の定期講座も、で十年後には全国の市町村で開かれるなど、全社会教育の町村全部に公民館を普及する考えである。

現在、全国に三千五百四十九町村のうち独立の公民館をもっているところは千八百八十九町村にすぎず、

文部省はこのため、十カ年で全国市町村に最低二つの公民館を設立する計画を立て、その全費用の七〇〇万を国が補助する方針を打ち出した。

一方、既設公民館の施設整備費も来年度は映写機(七十台)録音機(三百台)テレビ(七百五十八台)移動公民館(二百台)などを補助する方針を打ち出した。

十三の公民館が新設されることになる。

次回は三月下旬「地方編」「資料編」の校正にかかる。同時に、去る一月二十八日文部省において開催された関東甲信越静公連会(別稿)には、三十六年度長会議(別稿)には、三十六年度全国公民館大会開催地の第一候補地として、静岡、群馬の二県が



写真は文部省第三委員会室での会議の様

関公連会長会議開催 全国大会開催地など話しあう

昭和36年度全国公民館大会が関東ブロックにおいて開催されることになり、開催地などを決定するため、去る1月28日文部省第三会議室において関東甲信越静公民館連絡協議会々長会議が開催された。安沢会長以下出席は8県、欠席は東京、山梨、神奈川の3県のみであった。

当りの内容のおもなところは次のとおり。

報告事項

1. 昭和35年度事業中間報告(安沢会長)～了承一略
2. 全公連編上局長欧州社会教室視察について一略

決議事項

1. 昭和36年度全国公民館大会開催地ならびに開催方法に関する話しあいについて
 - ① 第一候補として静岡、群馬をあげ、この二者で調整のうえ開催地を決定する。
 - ② 右2県が開催できない場合は栃木県をお願いする。
 - ③ 開催期日は11月。
 - ④ 開催方法等は開催地と全公連で話しあう。
2. 昭和36年度第一回総会について
 - ① 第一回総会は神奈川県小田原市で開催する。
 - ② 開催期日は4月下旬。
 - ③ 出席範囲は各都県会長、副会長、事務局の3名前後。
3. 昭和36年度事業計画に対する意見交換および方針等について
 - ① 来年度負担金は5千円に増額する。(従来は3千円)
 - ② 収入がふえた分は主事研修に用いる。
 - ③ 関公連の負担額は負担金をふくめ年間1万円程度の各県支出があるものと承知されたい。

助されることになった。

(一部既報)

県公民館誌印刷中
完成は年度中に

「新潟県公民館誌」は、現在「歴史編」「地方編」「資料編」を印刷中である。このため去る二月二十日新潟県立青年の集において第一回校正のための編集会議を開催した。この日は杉野哲次(新井)徳岡助夫(相崎本田清(事務局)の三編編集委員)により、歴史編の校正、地方編の配列順序訂正、ワリツケ等がなされた。

次回は三月下旬「地方編」「資料編」の校正にかかる。同時に、去る一月二十八日文部省において開催された関東甲信越静公連会(別稿)には、三十六年度長会議(別稿)には、三十六年度全国公民館大会開催地の第一候補地として、静岡、群馬の二県が

目次	
県広報紙コンクール結果	P2
トキの死	P3
意志あれば道必ずあり	P4・5
群馬県の優良公民館をたずねて	P6
法律、経済を学ぶ青森生	P7

定である。

また「資料編」のなかに「県内公民館名簿」「職員名簿」「公民館電話番号」等も入れるよう努力中である。

36年度全国大会開催地

三転し栃木県に決定

去る一月二十八日文部省において開催された関東甲信越静公連会(別稿)には、三十六年度長会議(別稿)には、三十六年度全国公民館大会開催地の第一候補地として、静岡、群馬の二県が

三月の母は父

ベートーヴェン

一八二七年三月二十六日、ウェーンで死ぬ。昔は死に魂をこらして失脚という困難にも屈せず、数多くの不朽の名曲を残した天才的作曲家。九つの交響曲は有名なものも美しいまづ毛の下に、涙があふれ出るなら、それがあふれ出ないように、つよい勇氣をもつてこらえよ。運命の道があるいは高くなり、あるいは低くなり、正しい道の見きわめがたい。この世のお前の旅路において、お前の歩みはたしかに平坦なものではなからうがしかし徳の方は、つねに正しい方向へお前を前進せしめるだろう。(手記より)

あがっていたが、その後両県とも都合により回辞してきたので、第二候補の栃木県に開催方法を強力に折衝、このほどようやく了承され開催地が決定したものである。

つねに行為の動機のみを重んじて、附着する結果を重んじない。報酬への期待を行為のバネとする人々の一人となるな。(手記より)

第九回 広報コンクール結果

気を吐いた公民館報 平均化した力、選考でまどる

さる二月一日午前かつが、つぎの作品が集ま
十時より県庁第二委
員会室において県主
決定にてまどるこ
ういふほどであつ
た。

これは、年々技術が向上し、力どしかなくなり、しかもこの市町の審査が行なわれ、平均化したためと、過去に一度村広報の編集は多岐的には公民館評価を受けたことのある市町村で、評価をひかえていることにもなる。四十一歳よりは少な

公民館報は「徳報やひこ」が町村の部で一位になったのをはじめ、入選多数を出し、気を吐いた。現在広報未発行の市町村は数えるほど。村広報の編集は多岐的には公民館職員が担当しているところが多く、この方面での一層の研究が望まれている。

なお審査員は各級選考関係及び県文



写真は県庁第二委員会室での審査風景

徳間氏 (柏崎) が文部大臣賞 公民館活動実践記録審査結果

文部省 文部省 文部省
の柏崎市西中通公民館主事徳間助
夫氏は入選一席となり、文部大臣賞を獲得した。

なお、徳間氏の入選記録は、主催者の方で、本誌に掲載するよる第七号になった。(本号別掲の特集)

☆入選一席 文部大臣奨励賞
☆入選一席 新潟県公民館協会賞
☆入選一席 新潟県公民館協会賞
☆入選一席 新潟県公民館協会賞

公民館報「徳報やひこ」が町村の部で一位になったのをはじめ、入選多数を出し、気を吐いた。現在広報未発行の市町村は数えるほど。村広報の編集は多岐的には公民館職員が担当しているところが多く、この方面での一層の研究が望まれている。

なお審査員は各級選考関係及び県文

広報長、社教課 (伊藤社教主事) 市町村会長等が県公連からも石井副会長が出席した。

◆最優秀賞 新潟市公民館
市部一位 「広報たかた」二位
市部一位 「広報つばめ」三位
市部一位 「広報つばめ」三位
市部一位 「広報つばめ」三位
市部一位 「広報つばめ」三位

◆市民部一位 「広報つばめ」三位
市部一位 「広報つばめ」三位
市部一位 「広報つばめ」三位
市部一位 「広報つばめ」三位

◆市民部一位 「広報つばめ」三位
市部一位 「広報つばめ」三位
市部一位 「広報つばめ」三位
市部一位 「広報つばめ」三位

公民館主事研修 会 (文部省) の開 催県さまる

文部省では、昭和三十三年度の公民館主事研修会 (昨年は宮城県塩釜市、石川県津島市で実施) の開催地を二月七日、八日全県社会教育上管課長会議で、つきの五県を会場担当県とする事に決定した。

北海道東北ブロック 山形県
関東甲信越ブロック 群馬県
中国四国ブロック 高知県
近畿東北ブロック 和歌山県
北陸ブロック 大分県
九州ブロック 大分県

なお、研修会の会場と期日は未定であるが、おそくとも四月中旬には決定される見込である。

昭和三十五年 公民館職員講習開催要項

一、趣 旨
市町村における公民館の任務は広はん多岐にわたっておりその実務運営にあたる公民館職員の仕事内容はひじょうに複雑かつ重要である。したがって、公民館職員の専門的技能を高い程度に、関係者一同の要請するところであり、本講習はその資質向上の機会を提供しようとするものである。

二、主 催
新潟県教育委員会
新潟県公民館連絡協議会

三、期 日
昭和三十三年三月十五日 (水) 十七日 (金)

四、会 場
西蒲原郡赤彦村 みのや旅館

五、参加者
公民館長、主事、書記等県内公民館職員 約五十名

六、講 義
八、日程 別表のとおり

九、経 費
講習参加者は次の部会に所属して討議することとし、あらかじめ具体的な研究議題を提出する。

七、研究討議
①パネル討議
②部会討議
講習が必要か
講習参加者は次の部会に所属して討議することとし、あらかじめ具体的な研究議題を提出する。

一、趣 旨
新大教授 榎本善一 氏
社会教育から見た青年成人の心
理 新大教授 黒田正典 氏
県社会教育行政
社会教育十年の歩み
公民館の現状と課題
研究討議

二、主 催
新大教授 榎本善一 氏
社会教育から見た青年成人の心
理 新大教授 黒田正典 氏
県社会教育行政
社会教育十年の歩み
公民館の現状と課題
研究討議

日 程	15日	16日	17日
9:00	開 講 式	開 講 式	開 講 式
10:00	受 付	受 付	受 付
11:30	開 講 式	開 講 式	開 講 式
12:00	開 講 式	開 講 式	開 講 式
1:00	開 講 式	開 講 式	開 講 式
2:00	開 講 式	開 講 式	開 講 式
3:00	開 講 式	開 講 式	開 講 式
3:30	開 講 式	開 講 式	開 講 式
5:30	開 講 式	開 講 式	開 講 式
6:30	開 講 式	開 講 式	開 講 式
7:30	開 講 式	開 講 式	開 講 式

た 青年学級の歩み

第七回公民館活動実践記録

文部大臣賞受賞作

はじめに

昭和三十一年四月に開設したわれわれの柏崎市西中通青年学級も今年で五年目を迎えた。
 『山鹿が悪い』『意欲がない』『そして、曲り角にきた』などと、最近の青年学級をのりまく話題は悲観的なものが多い。

われわれの青年学級も、僅か五年に過ぎないがその歩みは決して坦々たるものではない。学級活動を通して学級がどの書(び)共同することの専らと偉大さを存分味わったこともあった。しかしある時は何を計画しても成功せず、皆、苦しみ悩んだこともあった。あれから五年、本年度はじめ青年学級開設五周年を記念して行なった歴代学級生代表と本年度役員との懇談会は、かすかすのおもいで話に花が咲き深夜まで話がつきなかつた。

以下年を追って五年の歩みと、この歩みを通して得た私のささやかな所感を記してみた。

◎たくましかつた

第一年度

●凍て夜の進行
 つつ、各部落公会堂下の青年学級に燃ゆるもの
 級開設説明会を重ねて公民館と
 愛しまた二
 月の夜道、青年学級が当地に誕生したのは五年級開設への情熱を
 前の四月だった。
 館長より青年学級主事を命ぜ

られた私は、この大任を果すために私にできるたけの時間をとつては、一時間でも多く学級生と行動をとることにした。毎月二十五日夜の学級運営委員会をはじめ、できる限り学級生たちと行動をとるに決めた。公民館運営委員にもお願いして青年学級の育成へ公民館努力事項の第一にのり上げてもらう。この口角と意欲は、大間君という学級生代表の好リードと、農業改良普及員はじめ学校の先生方の協力もあって、開設第一日目としては予期以上の成果をあげた。すなわち地区水稲圃舎の研究とその標本作製、十日町市青年学級との交歓会、学級月報の発行、講演講習などなかなか活発だった。特に屋外会

と水稲病虫の研究は、青年学級ファンテ、トウモロコシの夜遊びのカムフラージュだろう。ぐらいにしか考えなかつた地区の人に大きな感銘を与え、青年学級の認識を新たにしようとした。とにかく開設第一年度は、たくましく野性味たっぷりだった。毎月の運営委員会も形式はつたことはいくらもなく公民館の美談で、時には全員賛成で審議会でのこの決定は学級



柏崎市西中通公民館主事

徳 間 助 夫 (35才)

生たちに、自分たちは期待されている」といふ自信と「よしひとつやろう」といふ意欲をも上げさせた。
 この口角と意欲は、大間君という学級生代表の好リードと、農業改良普及員はじめ学校の先生方の協力もあって、開設第一日目としては予期以上の成果をあげた。すなわち地区水稲圃舎の研究とその標本作製、十日町市青年学級との交歓会、学級月報の発行、講演講習などなかなか活発だった。特に屋外会
 開 設 第 一 年 度、余りにもすぐれたリーダーの学級生代表に感銘した私は、次のリーダー育成を怠らなかつた。第二年度学級生代表だった本間君の家庭の都合での退級と、熱心な講師だった山岸普及員の転勤が大きな痛手だった。この一年間、私はリーダーの大切さをこころに感じた。
 第一年度に引き続き行なうた地区畑作物病害虫の研究とその標本作製も、まとめあげることまでゆかず、何を計画しても学級生の出席は減るばかりだった。
 欠席勝ちの学級生へのたたきつけのつながりである学級月報もいろいろ工夫してみたが効果はなく、内容もあせりがにじみ出てグチが多くなった。
 この年はじめたお盆休みを利用しての一日二日のキャンプと、コーラスグループの市民音楽参加は、この年にしては成功だっ
 れていたことだ。
 ガス、水道そしてテレビは四軒に、二軒、生活程度も町なみの最良だが、収益増進のために町外へ働き出すにせよ、農作業に明けられるこの地区、報酬のない団体役員は一切コメン、部活動さえも手がない、いわゆるハード、そして学習活動など見向きもしようしないこの地区で、生活する学級生たちにいまの生活はただちにプラスにならないうりよりがりの、形式的、補習教育的なものを押しつけ、学習活動への積極的参加を要求していたことだ。
 苦しみがきつてつよつやく働きながら受ける学習方法、学級生たちのいまの生活をよりよくするための学習内容、そしてそのために青年学級のみでなく、青年学級と並行して地区の社会教育が推進されなければならないことに気がついた。基礎がためとも言える第一年度だった。この年、ともに苦しむ動員したって頑張った学級生たちは今でもよかしくい。
 この苦悶の第二年度、終始われわれを励ましてくれたのは公民館運営努力事項の第一に掲げられた「青年学級の育成」だった

◎基礎がための第二年度

た。
 キャンプは以来毎年続けられ、学級生たちの楽しい恒例行事になっている。
 今にして考えれば、私はこの成功したたつた多面用して学級生の意欲高揚をはかるべきだった。意欲充沛していた頃の私にはそれが考え出せなかつたのだ。学級振興の成否は指導者のチャンスと逃さぬタイミングに影響されるころが大さしいのではないだろうか。

◎軌道に乗った第三年度

年、青年学級の育成を、青年

話し合いを中心にして

学級の振興」とあ
らため、三年目を
迎えたわれわれの
学級活動を激励し
てくれた。

年度はじめの学
級運営委員会が私
は学級生代表たち
に、率直に私が反
省して気づいた点
を話し今年の運営
方法及び内容等につ
いて真剣に話し
合い、この話し合
いを何回も重ね
た。

その結果、この
年からの部活動で
地獄課程や学級生たちの生活
課題の「話し合い」を中心学習
としてとり上げ、この話し合い
に出てきたいろいろの課題を、
毎月の全学級集合同じもちぎ
てさらに話し合い、共通課題に
ついては解決するための学習活
動を農業、家事、音楽体育及び
一般教養で行なうこととした。

話し合いの担当者には、
各部署の青年会長や部長団員
の中から選び、養成のための講習
会を行ない各部署に配置し、ま
たこの担当者たちは隔月に定例
集会を行なって話し合い学習を
進めるための研究協議をするこ
ととした。担当者青年団員の中
から選んだことは、結果的に

生活している地域をよりよくす
るための話し合いを中心とする
問題解決学習にふみ込んだこと
は、学生たちの意欲と自主性を
高め、この意欲はさらに自分た
ちだけの学習活動から青年団、
婦人会、農研会そして部落振興
までまじえた公民館主催の部落
座談会にまで発展した。

また時には部落の話し合いに出
かけてゆき、切り抜きの生活記
録を読んで話しあったりして直
接学級生たちの声も聞くよう努
力した。

話し合いをはじめた頃は、たと
えば岡村民さんの詩「母の知ら
なかつた海を知れ」などの感情
に訴えるようなものが、話し合
いを進めるのに効果があったよ
うにおもう。

時には効果があるとは、私が
体験を通して得た教訓である。
学校の小さな机と腰掛で、講
師の話を聞くことの多かった今
までの与えられる学習から、学
生たちが日頃親しむ集まりやす
い部落公民館の、彼等が当面す
るべしの問題を悩み、そして
自分たちが生れ、育てられいま

話し合いの時にはあまり自立な
かつた学級生が図存在なこの名
手たつたりして皆を驚かせた
りした。

学級生の特長特質を発見し、
学級活動に活用することには大切
なこととおもった。

学級生が参加する「展示
会」をスローガンに行なつたこ
の年の展示会は充実していた。
各部署の話し合いに出てきた
焼酎生、冠婚葬祭、野休日、
家庭民主化、こづかいなどの問
題感を、それぞれ問題ごとに傾
在の姿と理想の姿のふたつのパ
ノラマで表現することとし、統
一された規格で部署ごとに作製
し期限まで会場に搬入すること
とした。

学級生たちは部活動ごとに、
話し合いに出てきた問題をバ
ノラマにどう表現するかで幾晩
も話し合い、いままでの話し合
いが表面だけで掘り下げられて
いないことに気づき、さらに問
題の原因現状解決方法について
話し合った。

◎ひとり立ちした第四年度

われわれはこの展示会を
学級開設以来毎年続けていたが
学級活動の整理と反省、話し合
いの掘り下げのためにも、また
地域の人々に学級活動を理解し
てもらうのに効果があった。

またこの準備作業を通して学
級生たちの心の中に培われた強
い仲間意識は前記以上に貴重な
もので、その後の話し合いを進
めるのに大いに役立ったことは
皆が認める所だった。

私は、よい展示会とはまずよ
い実体、すなわち充実した学習
活動をもつことだと痛感させら
れた。

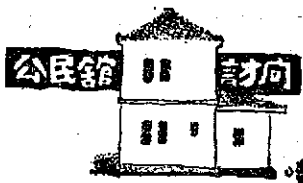
この一年時には学習の
座談会でも親父たちと話し合っ

みたが、理解はしてもらったもの
れ、また学級生たちもやればわれ
の現状では実現困難なことだ
るのだという自信を得た第四年度
だった。
外観的には第三年度より劣
ったが、とにかく自主的に運営
された。
(本紙編集委員)

青年は刃物をもつな

—大人は何をもつべきか—

◆文化という概念がどうもわか
りの状態から脱出し、物心両面
から、という声をきく、パンカ
にわたって理想実現のために生
パンカとデザインフレのように
活の様式と内容が形づくってゆ
使われるものだから価値の混同
が起きてしまったのもあろう。う
ものが字典的解釈だが、理想
か、衣食住あけて文化を頭にづ
けたり、しつ尾につけたりする
の解釈をヒョウタンナマスに
からだ。◆文化価値を実現する
てしまっていることも含めま
ためにその発達向上に努力し、
◆近代民主主義憲法の典型と
文化財を享受することが文化生
されたワイマールの道は共和
活たとなるものもわれわ理想
の高潔をめざすものであ
れのくらしに対する自信はあら
た。文化の創造と維持発展のた
つきた。指導者と文化人が別
めに人間の活動を十二分に
々のような怪しいさう感ええ
可能にさせるのがどうい
りかねない◆かつて文化的英
雄れた文化国家である。◆日
といわれたものは、神話とか伝
ばはい、文化創造の目標に向
承の中で未開部族の崇拜対象
といわゆる国家組織の一切を形
成する平和主義国家の表現を理
論として活動したと信じら
想としてゐる。これはあらため
ていたのだが、半神的存在は
ていうまでもない◆最近のも
しはくち指いて文化と指導は
腹あがりや考えろことば青年
に刃物をもつことになろう◆
自然物をもたせぬ運動もさ
を自然のままにまかせてお
から、大人のばい何をも
技術を通して人間の一定の生活
何をもたぬかも、文化を身
目的の達成に役立たせようす
けるためにはあらためて研究
ること、人間共同体が野蠻と
必要はあるまいか。
(9)



新 治 村 公 民 館 の 巻

私の日記から

対照的な両県の道路

「六月二十七日。昨夜(時三十一分)小千谷発の上り急便で帰京される都立文学の三井教授(京公民館大会講師)を高川(主事)と共に駅まで見送り、一時十分程に帰って床につき、今朝はまた五時半に起床して出立準備をいそぐ。種直している目のふちを洗面器にたえた水に顔ひたして顔を洗う。顔を洗った後、顔をあげて試みるとまたたぐのに少々目眩がでて、ようやくハッキリ意識がよみがえった。(県公大会の世話役だったため疲れてもいたらしい)荷舎片山旅館を六時三十分立立。一行は佐渡郡、而津市の公民館長と主事計十一名である。ゆづりは群馬県新治村公民館(県公大会)に小千谷市会場へ同乗同行はるる島から集った好機を利用して県外優良公民館を視察しようというのである)小千谷から汽車で湯沢へ、湯沢から中越自動車バスで三國峠へ、取道でこの平均二当りの耕地は八こと中越バスに別れを告げ、東

武鉄道のバスに乗りかえるの作地帯ではなく畑と圃地採草であるが、三十数分の待ち時地を主体とする中型農山村である間がある。一行は峠の絶景と三浦館長と山本主事が親切に視察背景に写真をして、牛乳や茶葉を喫して山頂の曇りにみなる。定刻がきて東武バスが乗車気分十二分の安全性がわく。それにつけても新潟県内の道路の貧弱さが対照的にみられる。沿道の起伏する山

十六年度から三町五反歩の試験農地を確保、農業専門学校の育成を活動目標として夜々奮々、今日に至ったことばうなすける。一町五反の耕地運管と、近代農業への近求上から、現在北地牛一、豚一山羊一、鶏六〇、兎八を試験飼育しているのみならず、山林育樹、肥料試験、果樹栽培とも取組む真摯な「明日をうつつ」の教育活動を展開している。

この農業専門学校の施設として、二八坪の校舎(教室四、事務室一、宿直室一、図書室一、実務室一、堆肥舎一、鶏舎一、鴨舎一、倉庫一、設備各品としては耕

群馬県の優良公民館をたずねて

庵 原

健

文部大臣賞に輝く公民館

新治公民館、昭和三十六年度の文部大臣表彰に輝く、優良公民館である。同村は人口一〇、五一七

部大臣表彰に輝く公民館の実態が、本年は一、五〇〇円が主座を占め、以下乳牛の二〇〇頭、煙草栽培の二五町歩。この数年は山に新しくコンニャク、リンゴの栽培

運搬機一、十稈検定器一、栄養検定器一、気象観測具一、粉砕機一、その他パドミントン、バレー、卓球、電音等運動、レクリエーション用具等々々の備えつけが、一通りの特殊施設を有する、小規模な学校形態をなしている。ま

三つあって、学窓を男にする青少年が、村をこしのために丸とるにはどうするべきか。ここに在りて、三十二年乃至四十年間を一つの学窓で育成した「村民和和と親睦」のかけ橋にする「新治公民館運営上のナンバーワン目標」という、特異にして、重大なわらがあるのでもある。

自発的発想による運営 中小学校の補習や「抽象的な断片的な学習をするのでなく、現実生活に生きた学習を通じて、新しい村づくりに自主的に参加する高度な合理的個性、科学的技術、実践的能力、協同の精神を培わん」(農業専門学校の運営方針を原文のまま)とするのも村民の自主的発想

赤谷湖、猿ヶ京温泉、赤谷川溪谷等々を、草履の説明によつて、走る。 民館八十二時半に着く。以上は六月二十七日の私の日記の一節である。 所で下車。新治村公民館へ入る。

この公民館が、まず村づくりに必要な資料を設けたことである。

公民館の活動主力がほぼここに集まっていることは明らかである。自治を公民館に統合した自治行政組織としての自治公民館にまで

公民館の活動主力がほぼここに集まっていることは明らかである。自治を公民館に統合した自治行政組織としての自治公民館にまで

公民館の活動主力がほぼここに集まっていることは明らかである。自治を公民館に統合した自治行政組織としての自治公民館にまで

公民館の活動主力がほぼここに集まっていることは明らかである。自治を公民館に統合した自治行政組織としての自治公民館にまで

赤谷湖、猿ヶ京温泉、赤谷川溪谷等々を、草履の説明によつて、走る。 民館八十二時半に着く。以上は六月二十七日の私の日記の一節である。 所で下車。新治村公民館へ入る。

この公民館が、まず村づくりに必要な資料を設けたことである。

公民館の活動主力がほぼここに集まっていることは明らかである。自治を公民館に統合した自治行政組織としての自治公民館にまで

公民館の活動主力がほぼここに集まっていることは明らかである。自治を公民館に統合した自治行政組織としての自治公民館にまで

公民館の活動主力がほぼここに集まっていることは明らかである。自治を公民館に統合した自治行政組織としての自治公民館にまで

三月 予定行事

- 公民館職員講習会 (県社教育関係) (3月15日)
西浦新彦村のや旅館 (3月15日)
湖沼指導者講習会 西浦分水会館 (3月18、19日)
公民館運営研究会(予定) 北浦山公民館 (3月下旬)
県社会教育委員会 県立図書館 (3月10日)
銃砲刀剣類検査委員会 小林百貨店 (3月15日)

に基くものであることをまたなす。その他、婦人学級、社会学級、分館運営等については特記したい。 意欲を覚えなかった。まして期待した村内各種、社教団体、サークル等の学習集団の分解、発展、変質への一連系脈については、一向にとらえどころが無かったのは残念だった。もっとも、これまで探究するには時間が足らなかったから。(本会責任理事)

法律経済を学ぶ青級生

放送された長岡市「火曜の集い」

さる二月十一日夜九時よりNHK番組「若い力」で放送された、長岡市青年学級「火曜の集い」の放送原稿を入手したので紹介する。

毎晩この時間には新潟県内で活躍している若い人たちのいろいろなグループを紹介してきましたが今夜は長岡市の中小企業に働きながら若い意欲をもやして法律や経済の勉強をしている青年たちを紹介いたします。

学際を興立って社会に出た若い人たちが働きながら教育を身につける場所の一つに青年学級があります。三、四年前の長岡市には三つの青年学級があり、二百人以上が参加して活発な活動をしていました。ところが年ごとに出席者が少なくなつて、去年あたりはほとんどの人もしびを消さないで去つてしまつたかのようにみえます。

長岡市内の商店や町工場に働いている人たちが、小さな商店の手続き、中学校を卒業して勉強する機会がないまま、すでに社会に入つてから二十五年位までの人々が火曜の集いの会員です。毎週火曜日の夕方六時から七時半まで、会場の準備がはつた元々の長岡市坂下小学校の教室に集まっています。

この集いでは会員の中から選挙委員を選ばせ、希望や希望をとりまとめ、実際の学習やレクリエーションを行なっています。会員たちの間で一番熱意の多いのが、

「火曜の集い」はこのような会員の希望をそめて、実際に役立つ「火曜の集い」の活動を内外、友情と恋愛のあり方といった情懷を高める講座も計画し、若い人たちの知識慾にこたえたいと、若々しい意欲を

見せている「火曜の集い」の活動は注目され、会員たちも自分たちで守りつづけて知識慾の

「と長岡市の公民館と相談して作ったのが「火曜の集い」です。こうして火曜の集いは去の十一月十二日に誕生し、現在男女合わせて六十四人の会員が集まっています。

から夜九時すぎまで熱心に法律について話あひまわつています。火曜の集いは、まだ満足して居ない青年たちのささやかな集りですが、大きな都市の青年学級が、もはや名前にだけなつて居る現状、他の都市には見られない意欲的な集いといえます。

が法律、特に親屬に關係してしまつて居る民法や労働法の問題に関心もたれています。法律にたいして希望が強しようとする青年たちがまと

まらなはなかなかむすかしい活動が上です。



もつとも満足して三月月定の集りです。また、思つたような活動ほのぞめないよう、この会を力をつけていく長岡市公民館でも、今は何んといつても会を育てるために仲間づくりの力をいれる時期です。今後は長岡市の火曜の集いについてお伝えします。

まが、働く青年たちの職業も

小鳥を住む 庵原 健

山の鳥家に入りきて暮らさくちほし打つも今日雪荒れて雪降りてわが家に入りし山の小鳥なげしとまよるからたひきしめて小鳥かして外の吹雪は見ながらも舞ひこみし小鳥部屋より逃げずとび入つて部屋にひそみし雪の降るのほかに打つも雪照る空をわが視線をくろく知るやいちはやくおすみ直すなげし小鳥雪山の家にたちこみし鳥がおとす和泉気なし掃きて捨てるに

(佐渡公運顧問)

と寄贈あがと

- 12月1日～1月30日
- 津山町公民館報(津山町)
 - 出町公民館報(出町)
 - 吉田町公民館報(吉田町)
 - 広報(佐和田)
 - 川西町公民館報(川西町)
 - 佐和田町公民館報(佐和田)
 - 守門町公民館報(守門町)
 - 守門町公民館報(守門町)
 - 米村公民館報(米村)
 - 松代町公民館報(松代町)
 - 真野公民館報(真野)
 - 豊原公民館報(豊原)
 - 徳神公民館報(徳神)
 - 山北公民館報(山北)
 - 黒川公民館報(黒川)
 - 安塚公民館報(安塚)
 - 高柳公民館報(高柳)
 - 黒崎公民館報(黒崎)
 - 中郷公民館報(中郷)
 - 水沢公民館報(水沢)
 - 大和公民館報(大和)
 - 亀田公民館報(亀田)
 - 吉川町公民館報(吉川)
 - 黒条公民館報(黒条)
 - 日越公民館報(日越)
 - 戸田公民館報(戸田)
 - 深才公民館報(深才)
 - 太田公民館報(太田)
 - 山本公民館報(山本)
 - 新島公民館報(新島)
 - 柏崎市社教育行政実施の基本計画(三島古志社教育資料)
 - 新潟社会福祉(国立博物館)
 - 新潟二ニュース(柏崎市西中連綿人学級)
 - 会報(新潟県公民館)
 - 新しい暮らし(吉川町教委)

